

## 考えさせられたこと

総務庁統計局統計基準部統計審査官

田所 好美

### 1 子を見て親は育つ

唐突ですが、私には高1，中2，小5の3人の子供がいます。中学生以上になるとある程度自分なりの考え方が固まってくるので、その点で一番下の子は、「人間観察」（非常に冷たい言葉ですが）の対象としては、非常に優れた材料です。

小学校の高学年になってきますと、ちょうど反抗期に入ってくるので、この頃は何か「お手伝い」を頼んでも「何で私がやらなきゃいけないのよ。」ととても反抗的です。他方で、自分のことをやってもらう時は当然だという顔をしています。（子供の育て方を間違ったのでしょうか。）先日は、「そういうものの考え方は間違っている。」と思わず怒ってしまいました。

ところで、大分前のことですが、ある機関紙で「こそこそこのうた」というものを読みました。正確には覚えていないのですが、「こそこそこのこそは、こちらのこそならで、あちらのこそでこそあれ」というようなものだったと思います。「こそ」がたくさん出てくるので分かりづらいのですが、夫婦間のことが例示か何かで書かれていたかと思います。例えば夫が奥さんに対し「俺が仕事をしているからこそ、生活ができていけるんだ。」というように自分（「こちら」）

のほうに「こそ」を付けてしまうとそれこそ喧嘩にでもなってしまうのですが、そうではなくて（「ならで」），「おまえがいるからこそ、俺は安心して働けるんだ。」というように相手（「あちら」）に「こそ」を付けることで、夫婦仲も円満にいくというような話だったと思います。

小5の子は、ものの考え方として「こそ」の付け方が、間違っているのではないかと思っています。とはいっても、改めて自分を振り返ってみてどうか、と問われると甚だ自信が無くなります。特に、忙しくなったり、いらいらしたりしている時には、特に「こそ」を自分のほうに付けたくなるものです。改めて反省しなければいけないと思った次第です。

### 2 あるアンケート調査

先日、ある企業からアンケート調査がきました。10数年前に一度だけこの手のアンケートに当たったきりだったので、思わず、お久しぶりなどと馬鹿なことを考えてしまいました。

10数年前の時のアンケートにも、「調査拒否」することなくまじめに回答して出したのですが、そのとき思ったのは、「答えるのはいいけれど、その結果がどうなった

かくらい教えてくれても良いのではないか。」ということです。今回のアンケートでは、無記名の調査にはなっていたのですが、最後のページに「もし、アンケートの調査の結果をお知りになりたいかたは、送付先を記載して下さい。」というようなことが書かれておまして、少しは、「調査客体」のことも考えているなど一応の評価をした次第です。

ところで、アンケート調査は、いわゆる意識調査というものだったのですが、いざ回答を書こうとすると結構苦しみました。それは、大きく二つの点からです。

一つ目は、これはごく当たり前のことなのですが、設問の意味が分からない。民間企業についてのことで、何々についてどう思いますか、というようなパターンだったのですが、そもそも、その何々が分からない。やむを得ず「？」、仕方がないでしょう。振り返ってみて役所が実施している統計調査はどうでしょうか。役所の中の専門用語になっていないでしょうか。統計調査とは違うのですが、役所に出す申請書で、〇〇法律第〇条に規定する〇〇は、というようなものがあり、その条文はどこにもっていない。役所の中にいけば法令集で調べたりもできますが、一般の家庭では無理だろうな、また、仮に条文が載っていたとしても難しくて分かり難いだろうななど思ったものです。役所に出すものは正確性を求めますので、こういうことになるんだろうなと思います。これは、極端な話で、統計調査ではこんなことはないと思いますが、あらためて、回答する側をたえず念頭

に置いておかなければならないと反省した次第です。

もう一つは、先ほども書きましたが、意識調査だったということです。どういうことかといいますと、事実を聞く調査、例えば「1日に平均どのくらい睡眠を取りますか。」と問われれば大体こんなもんだろうと見当を付けて答えられると思うのですが、何々についてどう思いますかというのは、ある意味で自分の価値観を問われるものです。特に、今まで考えたこともないような問いがあると、う〜ん、どうだろうと思わず考え込んでしまいました。これが、統計調査における国民負担の一つ精神的負担というものだと理解した次第です。いずれにしても、このアンケート調査を通じて、今まで考えてもいなかったことを考えさせられたということだったと思います。